

# 地域を愛する会を目指して

みどりのまちづくり会  
会長 星川 靖幸

私たち「みどりのまちづくり会」は、緑の羽根募金でおなじみの岐阜県緑化推進委員会の支援を受け、新鶴沼台周辺の緑地整備という切り口で地域の安全・快適を求めて活動を続けている団体で、今年2月で満12年目を迎えます。会員数は約100人と多いのですが、毎回出席される方は25~30人程度で年間30回くらい緑地整備や植樹事業を実施しています。



さて、私どもの住まいする地域は、名古屋駅から30~40分という大都市近郊にもかかわらず、緑豊かで毎朝小鳥の鳴き声で目を覚ますなど、素晴らしい自然環境にほれ込み、一生のすみかと思われた方がほとんどだと思います。しかし、造成当時はきれいに整備されていた団地周辺も、半世紀を経た今日、新たに芽生えた雑木が大木となり民地空間を侵食、風が吹けば枝は屋根をこすり、枯れ松が裏庭に倒れるなどの事故が頻々と発生するようになってしまいました。特に独り暮らしや高齢者世帯では、何とも手の打ちようがありません。



そこで、これら生活上の危険を何とか取り除き、安全で美しい、住んでよかったと思われる環境を後世に残すのが、同じ団地に住むことになった我々の使命ではないかという高邁な理想を掲げて発足したのが当会であります。しかし、当初は金もなく、経験も装備も充分でないにもかかわらず、家屋に被さった危険立木の伐木や枯れ松の伐倒などで隣家の屋根を壊したり、救急車のお世話になるなど、今から思えば考えられないような無茶をしたものだと我ながら

呆れるばかりです。その後12年たった今では、毎年、外部講師による徹底した安全講習会や技術講習会を実施し、国や県の関係団体から直接連絡も入り、装備もちょっとした森林組合にひけをとらないなどと言われるまでになりました。

団地周辺の危険箇所の整備が一段落した現在は、次代を担う子どもたちに目を向け、気軽に自然に親しむことのできる新ドングリ広場の整備、小鳥の巣箱かけ、ドングリの苗木づくりと植樹などに力を入れています。また、夜しか自宅に帰らず、「ねぐら族」と言われた団塊世代の通勤者も数年前から大量に家庭に戻り始めました。しかし、仕事一筋のお父さん達は地元には知り合いも少なく、やむなく「昼寝族」を決め込んでいる人も少なくないと聞いています。これらの方々に、地元自治会と協力して、種々のイベント等を通して地域デビューのきっかけづくりができればと、いろいろな取り組みを実施しています。

我々が一生のすみかと思えたこの地域を、子・孫の代まで安全で快適な環境、助け合える仲間がいっぱいの楽しい故郷として引き継いでいけるよう、今後も皆と手を携えて頑張っていきたいと思っています。



鶴三支部のトレードマークです。



『ウッピィ』

# ふれあい

第78号 平成24年3月15日

編集・発行 各務原市社会福祉協議会  
鶴沼第三連合支部

社協のマークです



福祉の心を育てよう

## 支え合う絆は「ふれあい」から



各務原市社会福祉協議会 鶴三連合支部長 小澤 恒男

お忙しいなかを社協の活動にご協力くださった会員、ボランティア、役員の皆様に心から敬意を表します。東日本大震災義援金として、リサイクルバザー売上金 51,250 円を拠出することが、12月17日の理事会で承認され、送ることができました。

東日本大震災から10ヶ月が過ぎました。大震災と原発事故は12月末現在で、死者15,844人、行方不明者3,451人、被災者33万人以上の方々が仮設住宅などの避難先で年を越しました。被災者の方々は今後も仮設住宅環境、復興、仕事探し、放射能除染など苦難の生活が続くと思います。まだまだ長い支援を必要としています。

震災直後、瓦礫の中で孤立した地域の人たちが子どもから老人まで支え合って生き抜く姿がNHKでも放映されました。漁業を通じての日常のふれあいが支えあう大きな力になったと報道されました。支え合う絆は日常の自然なふれあいの積み重ねで強くなること、社協はそのふれあいの場をつくる手助けをすることが大切ではないかと痛感しました。

鶴三校区の高齢化率は25.8%（65歳以上、平成23年4月1日）で市の17校区中3番目に高く、4人にひとりが65歳以上ということになります。社協の役割はより重要になってくると思います。さらなるご協力をよろしくお願いいたします。



## ふれあいフェスティバルと市民運動会の合同開催について

前年度から引き継がれたこの件については、検討委員会を設け、役員会、理事会、フェスティバル実行委員会にて検討を重ねてきました。10月16日の第25回ふれあいフェスティバルの実施をふまえ、11月12日の第3回実行委員会（反省会）では、合同開催は無理との意見もありましたが、体振、連合自治会の要請もあり、紆余曲折しましたが12月17日の理事会で合同開催が承認されました。

提案者の体振が主体となり自治会連合会、社協で「第1回ふれあい運動会（仮名）プロジェクト会議」を立ち上げ、社協からは数名の委員が出席する事になりました。





## 『ふれあいフェスティバル』を振り返って

ふれあい委員長 林 道春

子どもがうめま第一幼稚園の年長の時に鼓笛隊演奏で参加して以来、毎年保護者としてふれあいフェスティバルに参加してきましたが、保護者としての参加は今年で最後という年に実行委員長の大役を務めることになるとは夢にも思いませんでした。前年度の委員長から分厚い資料のファイルを引き継ぎ、事前の会議から小中学校、幼稚園との打合せなど当日までにする準備の多さに圧倒されましたが、支部長はじめ、社協役員の皆様のお力をお借りしながら何とか進めていきました。

開催前日のテント設営時には小雨の降るあいにくの天気となり当番区の皆様には大変ご苦労をおかけしましたが、フェスティバル当日には回復し、汗ばむほどの好天に恵まれて本当によかったです。前日の雨の影響でグランド状態が悪かったため、ストラックアウトは急遽場所を移動して対応していただきました。各自治会の模擬店は早朝から自治会役員の皆さん総出で準備をしていただきました。くつろぎ広場では民生委員、近隣ケアグループの方々にお茶のサービスを行っていただきました。体育館でのふれあいコンサートでは中学生の吹奏楽と幼稚園児のダンスのコラボレーションを初めて行い大変好評でした。

実行委員会の各団体の皆様をはじめ、鶴沼第三小学校の先生方、保護者の方など多くの方々のご協力を頂き、子どもたちの笑顔があふれ無事に開催できましたことにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

社協鶴三連合単独の行事としての「ふれあいフェスティバル」は今年度までとなりますが、地域の皆様のふれあいが今後も未永く続いていきますように心から願っています。



## 社協鶴三連合 総務 境谷 祐司

総務委員会 平成23年度4月9日(土)の総会開催より、早くも1年になろうとしております。

その間、皆様のご協力により、介護予防の動きを取り入れた「介護予防教室」や、災害時の要援護者対策としまして自治会での体制づくり、をテーマに「福祉座談会」での意見交換会を実施する事が出来ました。

「震災など大きな災害時の要支援者対策」につきましては、各自治会の皆様中心に体制作りを継続的課題として取り組んでいく必要がございます。特に各自治会の皆様、民生委員の皆様、近隣ケアグループの皆様には引き続きご協力を頂きますよう、宜しくお願い申し上げます。

